

2010（平成22）年度 自己評価書

学校法人藤学園 北見藤女子高等学校

1 本年度の重点目標

厳しい少子化の現状の中で、選ばれる学校を築き上げる。 1 建学の精神にたちかえり、選ばれる魅力溢れる学校を具現化する。 2 健全な将来性のある経営をめざし、改革をはかる。

2 本年度の経営方針

生徒、保護者及び地域のニーズに応える学校づくりをする。

3 評価方法

評価方法は、次のとおり4段階とする。 A 充分である。 B おおむね充分である。 C 不十分である。 D まったく不十分である。

4 自己評価結果

No.	分野	評価項目	自己評価	
			達成状況	改善の方策
1	教育目標	○建学の精神と校訓は、今も受け継がれていると思いますか。	B	おおむね達成されているとの評価であるが、不十分も20%以上あり、今後も継続した取り組みが必要である。
		○学校教育目標や教育目的は、生徒の実態や保護者および地域の方々の要望を踏まえたものになっていると思いますか。	B	評価は良いが、保護者や地域の方々の要望を踏まえたものとは十分に言えず、さらに努力していく。
		○教育目標や教育目的を具現化するという意識のもと、日常の教育活動が行われていますか。	B	評価が二分しており、取り組みが不十分といえる。具現化や日常の活動により努める必要がある。
2	教育課程	○教育目標や教育目的に直結した教育課程を編成していますか。	B	評価は良いが、常に教育目標や目的を意識し教育課程を編成する。
		○生徒の実態に対応した教育課程となっていると思いますか。	B	Cの割合がやや多く、生徒の実態に即した教育課程となるよう努力する必要がある。
3	学習指導	○生徒の実態に即し、学力が向上するような教科指導をしていると思いますか。	B	各コースに適した指導、特に学習の向上という点で不十分な点があると思われる。
		○生徒の関心や意欲を高める授業や教科指導の工夫がなされていると思いますか。	B	Cの割合が多く、生徒の学習意欲を向上させるよう各教科での工夫が必要である。
		○教科指導において、学年や教科部会等の連携や協力が十分に行われていると思いますか。	B	評価が二分しており、取り組みが不十分である。学年や教科等の連携を密にするように努める。
		○生徒の学習状況を適切・客観的に評価する評価基準や評価方法になっていると思いますか。	B	評価基準や方法については、改善の必要がある。
4	特別活動	○生徒を健全な社会人として育成するようなホームルーム活動となっていると思いますか。	B	CとDの割合が多く、不十分である。学年を中心に、内容の改善に取り組むよう努める。
		○生徒会活動を通じて自主・自律の精神を養うとともに、北見藤の生徒としての自覚や連帯感を育てていると思いますか。	B	CとDの割合が多く、不十分である。生徒の任せ放しではなく、教員が指導していく必要がある。
		○全教職員が生徒会行事のねらいを理解し、生徒の活動に積極的に関わっていると思いますか。	B	評価が二分している。全教職員が積極的に取り組むように努める。
		○部活動や外部活動は活発に行われていると思いますか。	B	評価はやや高い方だが、外部活動などさらに活発になるように努力する。

No.	分野	評価項目	自己評価	
			達成状況	改善の方策
5	生徒指導	○あいさつや身だしなみなど基本的な生活習慣を身につけさせ、規範意識の高揚を図っていますか。	B	CとDの評価が多く、取り組みが不十分である。学校全体で取り組む必要がある。
		○担任や教科担任、部活動顧問とが連携して生徒指導を進めていると思いますか。	B	評価が二分している。教員間の連携が必要である。
		○心のふれあいを大切にし、生徒の悩みや相談に積極的に対応していると思いますか。	B	評価が高い方であるが、もっと生徒に対応するよう努力する。
		○不登校などの生徒の変化に適切に対応していると思いますか。	A	評価が高く、教職員も努力している。今後も、生徒の変化に敏感に対応していく。
		○生徒指導に関して、教職員間の共通理解や協力が図られていると思いますか。	B	評価が二分しており、教職員によって対応の異なる面がみられるため、努力が必要である。
		○生徒指導について、家庭や関係機関との連携が図られていると思いますか。	B	家庭との連携は向上してきているが、家庭訪問や電話連絡を密にして連携を図る。
6	進路指導	○生徒の適性や希望などを踏まえた適切な進路指導が行われていると思いますか。	B	評価はやや良いが、生徒一人ひとりに対応した進路指導により努める。
		○学年ごとに系統的・計画的な進路指導が行われていると思いますか。	B	系統的に3年間を通じた計画的な進路指導が必要である。
		○進路に関する情報や資料が効果的に活用され、全校的な共通理解や協力が行われていると思いますか。	B	情報・資料の全校共通理解や協力の点では不十分な点があり、更に努力する。
		○進路指導について、保護者の理解や関係機関との連携が図られていると思いますか。	B	保護者への情報提供が少なく要望が出ていることから、連携を図るよう努力する。
7	学年	○担任と副担任が連携して、学年が組織的に運営されていますか。	B	担任と副担任がホームルームや個別面談を一緒に取り組むなど改善が図られてきている。
		○家庭訪問や懇談会、各種通信等により、家庭との連携や協力が図られていますか。	B	評価が二分している。懇談会や通信の発行を行い、家庭との連携を強化する。
8	組織 校内研修 危機管理	○各分掌は、必要に応じて相互に連携を図りながら課題解決に努めていると思いますか。	B	徐々に分掌間の連携が図られつつある。もっと連携を強め、課題解決に努める。
		○前年度の反省に基づき、分掌や各委員会等の活動計画が次年度に生かされていると思いますか。	B	評価はやや良いが、常に反省を行い次年度に反映され改善するよう努力する。
		○限られた時間の中で、学校、教科、学年間等で校内研修が積極的に進められていると思いますか。	B	日常の教育活動に追われて、校内研修の時間を十分に確保できていない。教職員の資質向上のため、校内研修を実施するよう努める。
		○危機管理意識を高く持ち、不測の事態に対して組織的な対応が適切に行われていると思いますか。	B	情報管理などまだ危機管理意識は低い面がある。教職員間の意識向上を図る。
9	施設	○教材教具をはじめ、各種物品の整備・保管が適切になされていると思いますか。	B	今後も物品の整備・保管を適切に行うようにする。
		○生徒の安全確保に対処する施設・設備の維持や管理が十分なされていると思いますか。	B	今後も生徒の安全確保のために、施設設備の管理に努める。

No.	分野	評価項目	自己評価	
			達成状況	改善の方策
10	家庭	○学校の方針や活動が保護者や地域に知らされ、理解されていると思いますか。	B	少しずつ理解されていると思われるが、まだまだ不十分である。外部への情報提供に努める。
		○生徒・保護者や地域社会の期待に応えられる学校づくりに取り組んでいると思いますか。	B	まだ不十分であり情報提供とともに、広く意見を聞いて学校作りに取り組む。
		○PTA活動が充実した活動になるよう努めていますか。	☆B	今年度は、行事の協力やPTAだより発行等、非常に活発な活動だった。
11	その他	○仕事の事を含め、管理職や先輩教職員に相談できる環境ができていると思いますか。	B	CとDの割合が多く、管理職と教職員、教職員間どうしの相談ができるようもっと改善に努める。
12	総合評価		B	学校改革を進めている最中であり、意見は二分している。今後もより改善に努めていく。

5 総合評価理由

- 学校改革を進めているが、まだまだ改善の余地がある。すべての業務に緻密さやこだわりをもって取り組む姿勢が必要である。
- 危機管理をもって、まだ出来ることを考えていこう。
- 昨年と比較して改善は進んでいるが、中にはどこか留まっている感じを受ける人もいる。
- まだ良くなる所はたくさんあると思います。今を満足せずに、もっと良い学校を目指していけると思います。
- 学校目標や教育目標が教職員全体のものとなっておらず、教職員間の連携がまだまだ不十分である。また、保護者や地域へ積極的な働きかけも足りていない。取り組みが始められているが、これから更に力を結集していく必要がある。
- 家庭（生徒・保護者）のニーズと教職員の既存の考え方の間に、かなりギャップがある時がある。
- だいたい良くなって（向上）きていると思うのです。各教員・各職員の努力がみられると思います。
- 特進・進学については、進路指導等が良くなっていきていると感じますが、総合コースについて、生徒指導を強化する必要があると思います。建学の精神と校則が生徒の中に根付き、藤で変わったという生徒をもっと卒業させられたらと考えています。
- 学校改革の推進により、様々な取り組みが成され、努力も大いにみられるが、結果は十分といえない分野が多いと思う、今後もさらなる前進が必要であると感じている。
- 学校改革が行われている最中なので、先生方が一丸となって領域全体が①に向かうように取り組んでいると思います。しかし、完全ではないところも多々あると感じています。
- 期待される学校には徐々になってきたと思うが、生徒や保護者、地域から信頼される学校とはなっていない。
- 改善して良くなる所がまだあると思うので、これから頑張っていきたい。
- まだまだ詰めが甘いと思うし、一人一人が十分な実践に至っていない。夏休み、冬休み等の休業中にじっくり話し合いたい。
- 教員1人当たりの授業時間数が大体15～18時間で、そこからヴェリタスで+αになると20時間近くになり、会議などを入れるとなかなか連携するための時間を取りにくくなっている。
- 教員同士、協力し努力していると思います。生徒に伝わり反映されるまでもう少し時間がかかると思います。保護者（家庭）との連携はとれていますが、地域（住民）の方々との・・・手応えは私の視野が狭いかもしれませんが、実感できる場がありません。
- 各分掌・教科等が今まで培ってきた指導を集結することにより、体系的に構築され、計画性をもった確実な指導ができると思われる。まだその部分が不十分である。
- 自分も出来ていないので恐縮ですが、連絡体系に問題があると思います。知らない所で問題があっても、知らされていないことがありました。生徒にも連絡が行き届いていなく、動揺していることも多くありました。

- 前半部の項目はこれから改善していかなければならない項目なので③が多かったが、後半部の項目は概ね達成できているか、改善されつつある項目である。
- 各項目に関して、概ね実施されている部分があるが、その効果がまだ結果となってあらわれていないため、さらなる努力が必要と考えた。
- ヴェリタスに関しては、きちんとした制度になっていない、曖昧な部分が多すぎると感じる。個人への負担も多い。生徒会活動に関しては、事前の準備が無く、行き当たりばったりで行事が進んでいたように感じられた。教職員が管理職に相談しやすい環境を作してほしい。
- 「生徒のために」を考え、努力していると思います。
- 入試の推薦・本校第一で102名もの生徒が受験するということから、北見藤女子高等学校の活動が、地域の人々に認められてきているからだと思います。また、教職員もそれに対して努力していると思います。
- 学校改革にむけて、教職員の意識も改善に向かっていると思う。
- 教職員一人一人が持っている教育に対する熱意は充分あると感じるが、方向性が無く大きな力となりきれしていない。カトリック学校に勤める意味を各人がしっかりと持ち、同じ教育観に基づいて力を発揮できたら大きく変わるのではないか。その意味で、不十分というよりまだまだ伸びる余地があると感じています。
- 行事や授業をより改善していくことで、よりよい学校になっていくと思います。
- 学校改革ということで、様々な事に評価したいが、教材教具の整備や、開かれた学校づくりに関してはまだ不十分といえる。
- どの仕事もそうだが、特に教育の世界はどんなにやっても十分ということはありません。しかし、教育活動がまったく行われていないわけでもない。
- 教職員はそれぞれの部署で頑張っています。体力的にも精神的にも限界まで仕事をしています。私にはそのように見えています。次から次へと新人が増え、中堅の先生が退職する職場の中で、”おおむね”評価していいと思います。